

ふれあいニュースレター

【政府原子力被災者生活支援チームからのお知らせ】

今号の **ほっと・ニュース**

葛尾村にて

『日山神社例大祭』が
 厳かに行われました。

「日山」山頂での祭祀
 は震災後、初めてとな
 ります。



三匹獅子舞の奉納
 (三春町通足仮設団地)

日山神社での神事
 (日山山頂)



福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想の具体化に向けた検討会を開始しました

福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想は、震災、原子力災害の被害を受けた福島県浜通り地域の復興のため、廃炉の研究開発拠点、ロボットの研究・実証拠点などの整備、そしてこれらを支える「まちづくり」などを含んだ幅広い構想です。

今後、構想に掲げられた主要プロジェクトの具体化を進め、それを核としながら、福島浜通り地域の産業振興を着実に進めることにより、復興に向けた取組を加速する必要があります。

このたび、構想に掲げられた主要プロジェクトのうちロボット研究・実証拠点、国際産学連携拠点及びスマート・エコパークの3つについての検討を深めるため、関係省庁による検討会を立ち上げました。

今後、それぞれの検討会において、実現に向けた課題や解決策等を整理していく予定です。



暮らし関連2



「将来の営農再開に向けて
 実証試験を行っています」

暮らし関連3



「仕事ができる
 喜びを感じつつ、
 末永く事業を
 続けていきたい」

NEWS等4

「福島イノベーション・コースト構想」について川内村「復興子ども教室」で紹介しました 等



詳しくは、経済産業省のホームページをご覧ください。

http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/pdf/20141104_01.pdf



「将来の営農再開に向けて実証試験を行っています」

この試験農場では将来の営農再開のため、イネと数種の野菜（大根、なす、かぼちゃ、さつまいも、レタス、白菜、トウモロコシなど）を用いて、表土を取り除くか否かや、カリウム肥料を与える量によって、放射性セシウムの取り込まれ方についての程度違いが出るか調査するため、大熊町と福島大学の共同で実証試験を行っています。

平成24年に事業を開始しましたが、事業開始当初は1平方メートルくらいの水田と畑で、表土を取り除くか否かの影響に関する試験から始めました。

稲作は福島県の事業によりカリウム肥料の適正量が確認されていますが、野菜では必ずしも明確になっていません。このため、畑作物に対して、カリウム肥料をこの地で通常使用されてきた量を与えた場合とその3倍の量を与えた場合とを比較することにより、野菜での適正量を確認しています。

また、各土地の土壌の条件（土壌の種類、事故からの時間の経過）によ



大熊町の試験圃場で調査を行っています。



米については乾燥させた後、分析します。



この取組を継続し、将来の営農再開につなげられればと思います。

福島大学

環境放射能研究所教授 塚田 祥文さん (右)

うつくしまふくしま未来支援センター

特任准教授 大瀬 健嗣さん (左)

り、カリウム肥料が作物に与える影響が異なることにも着目しています。このため、継続的に試験に取り組むことにより、将来の営農再開につなげられればと考えています。



数種類の野菜でも調査しています。



土壌についても採取し、分析しています。



大熊町役場産業建設課

福島県会津若松市追手町2番地42号

連絡先：0242-26-3844



暮らし関連情報

◆◆株式会社三尾製作所(南相馬市)◆◆

「仕事ができる喜びを感じつつ、 末永く事業を続けていきたい」

当工場では建設機械に組み込まれる油圧シリンダーを製造しています。昭和40年代、当社が新たな工場の建設を検討していた折、ここ小高町（現南相馬市小高区）において企業誘致が募られており、当工場は昭和44年に建設されました。

震災後、ここは避難指示区域に指定され、工場の一部も損傷を受けていたため、操業を休止していました。震災1年半後から5名の従業員にて工場の片付けや修繕をし、グループ企業など他の工場で製造されたものの組み立てを行っていました。その後、国や県の補助金制度も活用して工場建屋や設備を整備し、本年3月から従業員35名にて事業を本格的に再開することができました。再開に至るまでの間、グループ企業が代替生産を行うことにより顧客を維持する等、本社、グループ企業を含め会社一丸となったことが再開の原動力となりました。目下の課題は従業員の確保ですが、



工場は震災の影響を受けたため、機器、壁や床を修繕しました。



大小様々な油圧シリンダーを製造しています。



数々の課題を乗り越えて迎えた再開の日は感慨もひとしおでした。

株式会社三尾製作所 福島工場
取締役 工場長 坂本 正彦さん

地元の若い方も採用し、人材育成にも力を注いでいきたいと考えています。

工場の再開を待ってくれていた従業員と共にこの地で着実に事業を進めていきたいと考えています。



溶接は熟練の技術が必要な工程の一つです。



コンピューター制御の機器も導入しています。

◆◆◆ 復興に向けた事業者からのメッセージ ◆◆◆



皆様との関係を大事に仕事をしていきたいと考えています。



株式会社三尾製作所 福島工場
福島県南相馬市小高区関場2-1
連絡先：0244-44-3171
URL：<http://www.mitsuo-mfg.co.jp/>



「福島イノベーション・コースト構想」について 川内村「復興子ども教室」で紹介しました

11月13日（木）に、川内村の川内小学校で、「復興子ども教室」が開催されました。

「復興子ども教室」は、川内村の秋元教育長をはじめとする村の有志が企画し、村の将来を担う川内小の5年生と6年生を対象に、村の復興についての勉強会を開催するものです。

今回は、今年6月に政府の研究会がとりまとめた「福島イノベーション・コースト構想」に盛り込まれた、

国際廃炉研究開発拠点、ロボット開発・実証拠点、国際産学連携拠点やスマートエコパーク等のプロジェクトについて、写真や図を使って説明しました。

子どもたちからは、「たくさんのロボットがあり、廃炉作業等に役立っていることがわかった」「福島でロボットについて最先端のことがたくさん行われていることがわかった。福島にも魅力があってうれしい」「福島の復興をたくさん考えてくれている人がいることを知ったので、私もこれからも考えていきたい」などと、頼もしい意見が寄せられました。



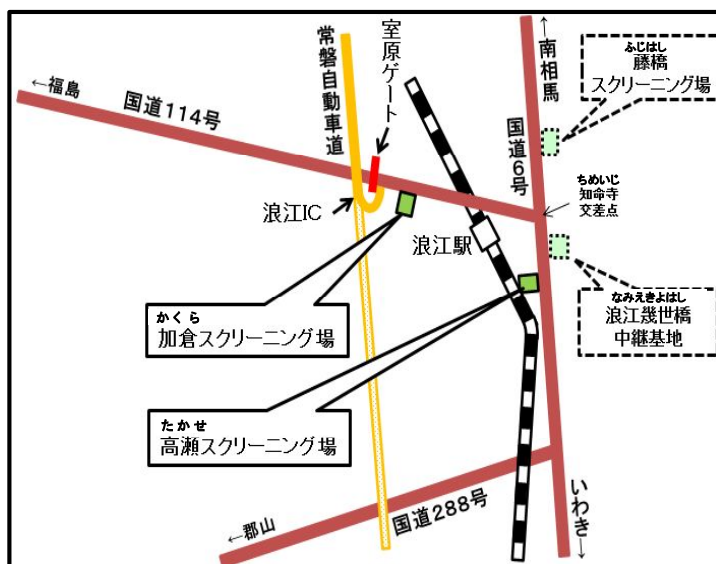
常磐道浪江ICの開通に伴い スクリーニング場の場所が変更されます

12月6日（土）に、常磐自動車道浪江インターチェンジ（IC）以北が開通します。

それに伴い、浪江ICそば（国道114号沿い）に、『加倉スクリーニング場』が設置されます。

また、国道6号沿いに『高瀬スクリーニング場』が設置されます。2つのスクリーニング場は、12月1日（月）からご利用いただけます。

なお、藤橋スクリーニング場、浪江幾世橋中継基地は、11月30日（日）をもって閉鎖となりますのでご注意ください。



「ふれあいニュースレター」バックナンバーのご案内

過去の「ふれあいニュースレター」につきましては、以下のアドレスよりご覧いただくことが可能です。ぜひご覧ください。
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu.html>